

令和4年度 第2回飯山市図書館協議会 会議録

- 開催日 令和5年2月17日（金）午後3時30分～4時25分
- 開催場所 飯山市公民館101会議室
- 参集者 委員：西田裕香子（会長） 小澤洋子（職務代理） 三井康幸 中村香織
前島憲一郎 堀崎典子 長谷川聡子 川口岳治 滝澤陽子
飯山市：松木英文（教育長） 田中良則（文化振興部長兼図書館長）
井端伸介（図書館係長） 木原恵子（図書館司書）
今清水弥（図書館係）

1 開 会 田中図書館長

2 あいさつ

会 長：新型コロナウイルスも少しずつ落ち着き日に日に春めいてきている。今日は図書館協議会の令和4年度の最終回ということで、有意義な時間を共有したいと思うので忌憚のないご意見等をいただければと思う。

教育長：本に親しむことは子どもだけではなく大人にとっても自分の見方や考え方を広めたり深めたり、あるいは相互関係を豊かにするのでとても大事なことだと思う。そんな点からも図書館にはとても大事な役割があると思うが、飯山市を中心とする地域住民がより図書館を活用して本を読むことに親しみ、自分の感性や教養を豊かにしてほしいと思っている。

全国的に ICT 教育が推進されていて、飯山市でも学校では子どもが情報端末をかなり活用している状況になっている。特に昨年学校に入れた電子黒板は使い勝手がいいということで、先生方はそれを使い ICT 教育をする場面が非常に多くなってきている。それはとてもいいことだが、ICT 機器はあくまで学習をするための道具であり、基本は読書をするとか友だちと対面で話し合っ言葉をも媒介として共同追求をするとか、そういったことが学習の根底として大事なことはないかと常日頃思っている。そんな面からも読むという体験や学習、あるいは読むことが楽しいという意識付けが子どもをはじめ大人にとっても大事な営みになると思う。

今日は今年度の事業報告や来年度の事業計画についてご意見をお伺いするが、飯山市の図書館が読書活動の憩いの場、あるいは学習の中核となるよう建設的なご意見をいただきたいと思う。

3 協議事項

(1) 令和4年度事業報告について

事務局：（資料4～9ページのとおり説明）

年度当初の数か月間はコロナ禍により中止した行事等もあるが、全体的には予

定した事業は概ね実施できている。

読書普及事業の11広報・公聴活動について、今年度から広報飯山やiネットによる従来の広報活動のほか、インスタグラムを活用した情報発信に力を入れている。

読書普及事業の13市町村と県による協働電子図書館（デシとしょ信州）については、昨年8月から運用を開始したところで、今後利用促進を図っていききたい。この電子図書館は長野県民であればどなたでも利用できるが、利用するにあたり飯山市民は市立飯山図書館の窓口で手続きをしていただくことになっている。

図書館環境整備事業について、今年度は既に照明のLED化されている閲覧室以外の施設のLED化を行い、本工事により図書館はすべてLED化が完了した。

※意見・質疑応答なし

(2) 令和5年度事業計画について

①運営方針（案）

事務局：（資料10ページのとおり説明）

1情報拠点としての機能・資料の充実の（3）他施設との連携の3点目『・「市町村と県による協働電子図書館」の利用促進を図ります。』、及び3利用者の立場に立った、市民との協働による図書館運営の（1）利用者の立場に立った対応の2点目『・SNSを活用した図書館情報の環境整備を精力的に行います。』の文言を追加した。

※意見・質疑応答なし

②事業計画（案）

事務局：（資料11～14ページのとおり説明）

読書普及事業の冒頭の3点目『・「市町村と県による協働電子図書館」の運用及び利用促進（R4.8月サービス開始）』の文言を追加した。

読書普及事業の⑩第3次子ども読書活動推進計画の策定については、文部科学省や県からの要請により各市町村で策定しているもので、飯山市では平成26年4月から第1次計画が運用されている。5年ごとに見直しを行い、第2次計画は平成31年4月から運用されていて、令和6年度から第3次計画となるので令和5年度が見直しの年となる。

寄贈受入（予定）絵本等の活用については、飯山市出身で千葉市在住の個人から絵本を中心とした図書寄贈を受け入れる予定がある。それをいつ頃運んでどのように活用していくかを今後考えていくことになる。

※意見・質疑応答

教育長：校長会の計画に図書館大会が来年度は飯山市で開催されるとあったが、それとの絡みはどうか。

委員：それについては県図書館協会小中学校部会が主催するもので、来年度は飯山市で小学校1校・中学校1校において研究大会を開く順番にあっている。

教育長：その大会が公立図書館とどう係わるのか、去年の例など他市の状況も聞きながら連携して取り組んでほしい。

(3) 寄贈受け入れ（予定）絵本等の活用について

事務局：なるべく早く寄贈者宅を訪問し、受け入れ予定の図書の量や運搬経費などといったところの全体像を把握したいと思っている。

館長：寄贈者はペンネームが野上暁さん、本名は上野明雄さんという方で、かつては本町にお住まいであり、出身は富倉と伺っている。78歳くらいで、飯山北高を卒業後進学され、その後小学館に入られ取締役まで務められ、今でも相談に乗っているとのこと。手塚治虫さんとの付き合いが長かったということで、手塚さんの漫画などがいっぱいあって、日本の漫画・アニメの創成期を陰で支えた方だと思う。児童文学や絵本にも造詣が深く、東日本大震災の時に陸前高田市では図書館が流されたが、その再建活動に携わられ、災害に関する絵本も作られるなどの活動をされている。平成23年度には市公民館子育てセミナーで雪国大学の講師としてお話しされている。絵本や児童文学や手塚治虫さん・宮沢賢治さんの本など、古い本から最近の本までご自宅は本でいっぱいである。今後寄贈本のリストを作るにあたり委員の皆さまにも関わっていただき、その活用についてもご意見をいただきたいと思っている。市長は児童文学や絵本のまちづくりをしたいということであるので、まちづくりの一助となるようやっていきたいと思っている。

※意見・質疑応答なし

(4) 第3次飯山市子ども読書活動推進計画の策定について

事務局：第3次計画は令和6年4月から運用となるので、策定は令和5年度に行い、そのため会議を2回くらいは持つ必要があると考えている。については、学校や教育施設でどんな取り組みをしたかなどアンケート調査を行い、その結果で現在の第2次計画の見直しの必要も出てくるかと思う。それを行うにあたり本協議会の委員の皆さまにもお願いしたいと考えている。本協議会の委員任期はこの4月30日で満了となるので、令和5年度に委員に就いていただいた方に第3次計画策定の委員も合せてお願いしたいと考えているのでご理解・ご協力をお願いしたい。

※意見・質疑応答なし

(5) その他

会 長：野上暁さんの蔵書受け入れはとてもいいことだと思う。子どもの時に絵本から入り児童文学に触れることは、将来いろいろところで励まされ役に立つと思う。自分の子どもについても、大人になっても絵本の言葉が果たしていることとか、場面が話に出てきている。飯山市のブックスタートはとてもいいことなのでぜひ続けていただき、それに合わせて野上先生の蔵書を受け入れ、飯山市の子どもたちが体験や経験を踏んで図書を身近に感じていければいいと思う。私の尊敬する人もお子さんが生れた時に絵本をプレゼントされている。子どもが絵本から入っていくのは気持ち的にもいいことなので、この事業をしっかりと受け入れていただければと思う。

委 員：保育園の本棚ということで、図書館から絵本をセレクトして年数回入れ替えしていただきありがとうございます。基本的な本のセレクトのほかに季節であるとか、新しい本も含めて貸し出ししていただいている。飯山市も保育園に入る年齢が低くなってきていて、例えば年度内に満1歳になった時点で保育園に入所している。未満児の低年齢化ということで、保育園に入所しているお子さんが多いので、ご家族と一緒に図書館に行くというより、保育園の本棚で届けていただいた本を保育士が母親代わりとなって日々の保育の中で活用させていただいている。お家の人が家事や仕事で忙しい中、保育園という日中の時間を利用して、お母さん・お父さんの代わりに膝の上に子どもを乗せて、それはひと時の間ではあるが親子のふれあいの時間にもなっている。子どもたちは新しい本には飛びつくが、しばらくすると保育園の本棚から借りていく本は、「ももたろう」や「はらぺこあおむし」や「うしかたとやまんば」といった昔からの話が多いように思う。司書の皆さんが心を込めて選んだ基本の本と数冊の新しい本とシーズンの本で充分ありがたいと受け入れているので、引き続きよろしくお願ひしたい。

4 その他

(1) 委員の任期について

事務局：現在の委員の皆さまの任期はこの4月30日で満了となりありがとうございます。令和5年5月1日付けで2年間新たに委員をお願いしていくが、各団体から推薦いただく方や図書館長推薦をお願いする方もいらっしゃる。ご本人のご意向を一番大切にしながらお伺いを立てさせていただきたいので、引き続き図書館運営にご協力をよろしくお願ひしたい。

5 閉 会 田中図書館長

以上